



出張報告書

令和 8年 1月26日

尼崎市議会議長 様

会 派 名 市民グリーンクラブ

代表者氏名 明見孝一郎

出張者氏名 佐野匠

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

1 出張期間 令和8年 1月13日から令和8年 1月14日まで

2 結果の概要

用務先  大津市	報告事項 (この欄には要点を簡条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付)  1 防災と職員の役割
添付書類 <input checked="" type="checkbox"/> 出張報告書 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備 考

3 届出事項の変更等  なし  あり (内容は裏面に記載)

旅 費 の 清 算

<input checked="" type="checkbox"/> 精算額は、令和7年12月10日届け出た額 ( 6,580円 ) と同一額である。 <input type="checkbox"/> 届出事項の変更等により、別途清算する。(精算額は裏面に記載)
---

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
発着地	前						
	後						
経 路	前						
	後						
用務先	前						
	後						
宿泊先	前						
	後						

# 出張報告書

## 1.出張概要

(1) 出張者名: 佐野 匠

佐野 匠

(2) 所属・役職: 尼崎市議会議員 市民グリーンクラブ

(3) 出張先: 全国市町村国際文化研究所(JIAM)

(4) 出張期間: 2026年1月13日 ~ 2026年1月14日

(5) 目的: 防災と議員の役割

## 2.出張内容

本出張では、講師の方々による講演・質疑、市町村議員との意見交換を通じて、今後の防災と議員の役割について協議し、新たな知見を得ることを目的としている。

スケジュールについては、添付の資料に準じている。

## 3.成果・所見

本研修・出張を通じて得られた知見や課題を以下に整理する。

### (1) 事前課題まとめ

事前課題がだされており、参加議員が何に懸念を感じているか回答し、まとめた資料をいただいた。特に気になった点をまとめる。

・「あなたの地域で最も気になる災害、懸念している災害は何ですか。」という問いには44%が地震・津波に懸念を感じている。次に25%が土砂災害に懸念を感じている。

・「あなたの所属議会において、『議会』として災害時の活動ルールを決めていますか。」という問いには議会BCP、議会独自の災害対応ルールを含めて79%が作成していることがわかった。

### (2) いつも混乱する災害対応・被災者支援をなんとかするために

講師 大阪公立大学大学院 文学研究所 准教授 菅野 拓 氏

高度経済成長したはずなのに、1930年の北伊豆地震の避難所と、2016年熊本の地震の避難所では避難所の様子に大きな差はみられなかった。その比較からはじまり、そもそも災害とは何か。これまでの災害対応の先進事例はなにかご教授いただいた。

・災害とは、

危険を引き起こす加害力 × 社会の脆弱性

日本の建築技術の進化によって従来では崩壊していたほどの震度でも耐久出来るようになってきている。つまり、社会の脆弱性の影響を受けて災害の規模が変化する。

・平時の行政体制と災害対策本部体制のちがいを

平時においては、首長を中心に各部署業務に対応している。

災害時には、災害対策本部長、災害対策本部事務局を中心とし、横断的に複合する業務に対応していくことになる。

・被災者支援の諸制度の構造と被災者からみた厳しさ

被災者支援制度の複雑さや縦割り行政による支援の届きにくさ。

東日本大震災での「在宅被災者」や「みなし仮設入居者」など、支援から漏れた被災者の問題。災害法制と社会保障制度の連携不足、災害対応におけるハード面とソフト面の課題がある。

複雑怪奇、部門跨ぎ、平時と異なる基準で運営される。宮城県石巻市などでは、発災から4年以上が経過しても、まともに居住性能が戻らない家に住み続ける在宅被災者が多数生み出された。

県外避難者の情報が自治体間で情報共有する体制づくりを急ぐべきと専門家から指摘されている。

・これまでの被災者支援の先進事例

熊本市のワンストップ総合相談窓口や「住まいと福祉のプロジェクト」チームの取り組み。

防災基本計画に在宅・車中泊避難者、福祉的支援の充実や明確化が規定された。

・法律上なにが変わったのか、変わりつつあるのか

災害救助法への福祉的支援規定の追加。

包括的支援体制の整備と防災分野との連携。

DWAT(災害時福祉チーム)の法制化と体制整備。

要配慮者と住宅のマッチング、災害ケースマネジメントの促進。

※DWATとは、Disaster Welfare Assistance Team の略です。

災害が起きたとき、避難所や被災地で福祉の視点から支援する専門チームです ※

主な役割は、高齢者・障害のある人、要配慮者の支援、避難所の生活環境の調整、福祉的な困りごとの把握と調整、介護・福祉サービスにつなぐ橋渡し

・結局何が変わったのか、変わりつつあるのか

災害対応のマルチセクター化、社会保障のフェーズフリー化、平時と災害時の法律やサービス供給の担い手の課題に対応していく。

被災者支援を「場所への支援」から「個人・世帯の生活の回復」に重点を置く方向へ転換することにしていく。

※災害対応のマルチセクター化とは、営利企業やNPOなどのサードセクターの組織といった政府以外の担い手も財源の公的な根拠をもって自律的に災害対応に参画すること

※社会保障のフェーズフリー化とは、普遍的なものになった社会保障の制度体系の中に被災者支援を位置付けて平時の社会保障の担い手たちが被災者支援を行う。

### (3) 平時の防災と議員の役割

講師 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

講師の鍵屋氏は秋田県にルーツをもつ。ご当地の無形文化遺産になったナマハゲを題材にしながら、地域の災害ボランティアの話から災害関連死、東日本大震災からの教訓についてご教授いただいた。

・ナマハゲについて

ナマハゲは(災害)ボランティアである。平時は五穀豊穡、家内安全を祈る来訪神。災害時は、要配慮者情報に基づいて避難支援をおこなっている。

・災害関連死の防止

避難生活の困難さから心身の状態が急激に悪化し、災害関連死が発生する可能性があります。特に高齢者や障がい者などの要配慮者に対する支援が重要です。

・要配慮者の支援

高齢者や障がい者など、避難行動が困難な人々を支援することで、避難生活中の衰弱や健康悪化を防ぐことができます。

・福祉避難所の整備

福祉避難所の設置や運営体制の整備は、避難生活中の要配慮者の安全と健康を守るために重要です。福祉避難所では、特別な配慮が必要な人々に適切な環境を提供することが求められます。

・地域共生社会の構築

避難生活支援を通じて、地域住民、福祉関係者、自治体職員が協力し合うことで、平時も災害時も支え合える地域共生社会を形成することができます。

#### ・避難生活の質の向上

避難所での生活環境を改善し、トイレや食事、医療支援などの基本的なニーズを満たすことで、避難者の健康や安全を守ることができます。

これらの取り組みは、災害時の被害を最小限に抑え、避難者が安心して生活できる環境を提供するために不可欠である。

ただ、公助にも限界があり、自治体職員は25年で16.5%減少、町内会自治会活動への参加も低下している。現在の災害対策で充分なのか？という常に危機感を持つ必要がある。

正常化の偏見「自分は大丈夫」という特性があることを自覚する必要がある。

東日本大震災の教訓として、高齢者や障がい者の死亡率は高い。地区防災計画や個別避難計画で近所や福祉につなげていきたい。

#### (4) 災害時における議会の対応と取組

講師 秋田県秋田市議会議員 見上 万里子 氏

令和5年に7月に秋田市豪雨災害の教訓をご教授いただいた。当日おこなった行動を細かく把握されており、消防団員をされていることから最前線で避難誘導されていた。現場を見た経験、議会で何に取り組んだかを学ぶことができた。

#### ・秋田市の被害状況

記録的な大雨で、観測史上1位級の降水量を記録した地点が複数ありました。河川が増水・氾濫し、市内中心地も浸水しました。秋田県全体で約9,203棟が被災、そのうち秋田市内で約7,946棟に被害といわれている。

#### ・要望 No.1

災害ごみ処理。指定場所以外への集積。道路へのはみ出し。個人宅入り口を封鎖されることがありました。

#### ・秋田市議会として

全員協議会開催。豪雨災害の被害状況と取組について当局から説明をうけるため開催される。

秋田市議会大規模災害対応指針を令和6年3月19日から施行。

一般質問からわかる議員の共通認識とは、「今回の豪雨災害は、市の防災体制の弱点を露呈した」「市民の命を守るため抜本的な見直しが必要となる」

会派視察など他市の防災対策を学ぶ

・尼崎との共通の課題

空き家対策。

豪雨災害時、空き家からのごみの流出、カビの発生。火災発生時、延焼拡大が想定される。危険でも手が出せない。所有より利用しやすい法整備を求める。

・秋田市ならではの課題

くま問題。くまがゴミにやってくる。

#### (5) 災害時、復旧・復興期の議員の役割

講師 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋 一 氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井 恵美子 氏

議会、議員の役割を各期に応じてお話いただいた。損失を最小化するためにはどうすればいいか考えることができた。

・災害時の議会・議員の役割

住民の命と尊厳を守る!

・応急対策期の議会・議員

「じゃまをしない」を超える。活動ルール(議長への情報一元化)、積極的な情報提供(行政へ、市民へ)、積極的な地域活動

・議会 BCP

・策定の順序

魂を入れる(心。対話で仲間づくり)

仏を作る(形。計画、モノの確保)

仏を磨く(継続。訓練・見直し)

・留意事項

職員の災害対応優先と議会の役割とのバランス

議会災害対策組織の位置づけ

議会機能の復旧

議会事務局職員の任務

#### 4.最後に

議員の行動について、議員自らが被災しないよう日頃より準備をおこない、絶えず危機をわすれてはいけません。窓口を議長に一元化し、決して自身の存在のアピールをする場ではない。行政職員を威嚇せず、支援者への利益誘導をしないことを前提に、議員である自覚をもって行動することが必要である。

これからの防災は、損失を減らす防災から「価値向上型」の防災へ

日常から人間関係、近所関係を良好にし、誰一人取り残さない魅力ある地域社会を作る。

#### 5. 添付資料

研修案内を添付します。

令和7年度

# 市町村議会議員研修[2日間コース] 第2回「防災と議員の役割」

地震や記録的な豪雨、大型台風などによる自然災害は毎年のように各地で発生しています。住民の命と生活を守るため、日頃からの防災意識の向上、訓練や備え、助け合える関係づくり、また、行政との緊密な連携が改めて重要となっています。

本研修では、災害発生に備え、平時からの防災の心構えや地域での連携の重要性について学び、現在の防災対策に関連する諸課題や議会・議員の果たすべき役割について考えます。

後援：全国市議会議員会 全国町村議会議員会

開催要領

日 程

令和8年1月13日(火)～1月14日(水) (2日間)

場 所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対 象

市区町村議会議員の皆様

2日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。過去に本研修を受講された方もお申込みいただけますが、より多くの方に受講していただくため、申込人数によってはお断りする場合がございますので、ご了承ください。

募集人数

60人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿 泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

従 費

8,050円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食1回、昼食2回、夕食1回)、資料等にかかる費用です。なお、事前準備・事前学習にかかる費用は含まれておりません。

申込期限

令和7年11月21日(金)まで

申込方法

議会事務局を通じて、JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申込みください。

受講決定

受講の可否については、開講日の約1か月前を目途に通知をお送りします。経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題

研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932

in-mail@kanshu@jiam.jp / 077-578-5932 / https://www.jiam.jp

令和8年

1月

13日(火)

11:00~  
入寮受付・昼食

12:30~  
開講式・オリエンテーション

13:00~14:30

**講演** いつも混乱する災害対応・被災者支援をなんとかするために

大阪公立大学大学院文学研究科 准教授 菅野拓氏

ここ数年に発生した地震や台風、集中豪雨等による被害を振り返りながら、わかっていながらもなぜ災害対応、特に被災者支援が混乱するのか、地方自治体としてどのように備えるべきか、地域での連携や議員に求められることについてお話しいたします。

14:45~15:55

**講演** 平時の防災と議員の役割

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋一氏

災害への対応は平時から意識し取り組んでおくことが必要です。この時間では、後半の演習の導入として、平時から議員として取り組むべき役割についてお話しいたします。

16:10~17:40

**演習** 平時の防災と議員の役割

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋一氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子氏

講義を踏まえ、平時における議員の役割について、ワールドカフェ形式による意見交換を行います。

18:00~

**交流会** 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

令和8年

1月

14日(水)

9:00~10:10

**事例紹介** 災害時における議会の対応と取組

秋田県秋田市議会 議員 見上万里子氏

コーディネーター：跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋一氏

令和5年7月と9月に発生した豪雨による被災状況、発災後に議会として対応されたこと、消防団員としての避難誘導、被災地域議員としての日常生活再建に向けた行政へのパイプ役、防災を所管する総務委員として活動されている議員の活動内容についてお話しいたします。

また、鍵屋氏にはコーディネーターとして、専門的な知見からご意見をいただきます。

10:25~13:50(途中昼食休憩有)

**講演** 災害時、復旧・復興期の議員の役割

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋一氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子氏

災害時および復旧・復興期における議員の役割についての講義後、グループに分かれて意見交換を行い、議員として何が出来るかについて考えます。

14:00~14:45

**講演** ふりかえりとまとめ

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部まちづくり学科 教授 鍵屋一氏

防災企業連合関西そなえ隊 幹事 湯井恵美子氏

14:45~15:00

閉講・事務連絡

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。